

(財) J K A 障害者のスポーツの振興 補助事業

完了のお知らせ

この度、(財) J K Aから平成22年度競輪公益資金による補助金の交付を受け、次の事業を完了いたしました。ここに事業完了のご報告を申し上げますとともに、(財) J K Aをはじめ、ご協力賜りました関係各位に謹んで感謝の意を表します。

1. 事業名 平成22年度障害者のスポーツの振興補助事業
2. 総事業費 33,506,869円
3. 補助金額 25,056,000円
4. 実施場所 東京都中央区日本橋人形町2丁目14番9号 三星ビル5階
財団法人日本障害者スポーツ協会
5. 完了年月日 平成23年3月22日

財団法人日本障害者スポーツ協会
会長 北郷 勲 夫

概要

1. 第10回全国障害者スポーツ大会の開催（千葉県）

名称：第10回全国障害者スポーツ大会（ゆめ半島千葉大会）

実施日：平成22年10月23日～25日

実施場所：千葉県千葉市、習志野市、船橋市、成田市、東金市、市原市、大網白里町の各会場

実施競技：個人競技6（陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ボウリング）

団体競技7（バスケットボール、車椅子バスケットボール、ソフトボール、フットベースボール、
グラウンドソフトボール、バレーボール、サッカー）

オープン競技4（ライフル射撃、ボッチャ、車椅子ツインバスケットボール、車椅子レクダンス）

参加者：選手約2300人、役員約2000人



2. 第10回全国障害者スポーツ大会予選会の開催

①聴覚障害者バレーボール競技ブロック予選会

全国6地区に分け、平成22年5月8日～6月13日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

	(男子)	(女子)	
北海道・東北地区	札幌市	札幌市	5月29日～30日、札幌市厚別区体育館
関東地区	東京都	神奈川県	5月30日、大網白里アリーナ
北信越・東海地区	愛知県	静岡県	6月13日、杵ヶ池体育館
近畿地区	大阪市	大阪市	5月30日、木津川市中央体育館
中国・四国地区	広島市	徳島県	5月15日～16日、国分寺B&G海洋センター
九州地区	福岡県	沖縄県	5月8日、白岩体育館

②視覚障害者グランドソフトボール競技地区予選会

全国8地区に分け、平成22年5月2日～6月13日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北地区	青森県	6月5日～6日、宮城県仙台市
関東地区	山梨県	6月5日～6日、神奈川県平塚市
北信越地区	長野県	5月15日～16日、石川県金沢市
東海地区	愛知県	5月15日～16日、岐阜県岐阜市
近畿地区	京都府	5月22日～23日、滋賀県長浜市
中国地区	広島県	5月15日～16日、岡山県岡山市
四国地区	愛媛県	5月29日～30日、香川県高松市
九州地区	福岡市	5月2日～3日、福岡県福岡市



③車椅子バスケットボール競技地区予選会

全国7地区に分け、平成22年2月27日～6月20日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北地区	仙台市	6月12日～13日、北海道立総合体育センター
関東地区1次	—	2月27日、葛飾区立総合体育館
関東地区2次	東京都	5月29日～30日、船橋市運動公園体育館
北信越・東海地区	愛知県	6月5日、かんぼの宿岐阜羽島
近畿地区	兵庫県	6月6日、大阪市舞洲障害者スポーツセンター
中国・四国地区	高知県	6月12日～13日、高知県立春野総合運動公園
九州地区	大分県	6月19日～20日、宮崎市総合体育館

④知的障害者バスケットボール競技地区予選会

全国6地区に分け、平成22年4月18日～6月13日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

	(男子)	(女子)	
北海道・東北地区	秋田県	秋田県	6月12日、福島県あづま総合体育館
関東地区	横浜市	東京都	5月30日、船橋市総合体育館
北信越・東海地区	愛知県	長野県	5月30日、松本市総合運動公園
近畿地区	大阪市	大阪市	6月13日、滋賀県立体育館
中国・四国地区	高知県	島根県	6月12日～13日、鳴門大塚スポーツパーク
九州地区	—	大分県	4月18日、沖縄県立武道館

⑤知的障害者バレーボール競技地区予選会

全国6地区に分け、平成22年5月23日～6月12日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

	(男子)	(女子)	
北海道・東北地区	宮城県	宮城県	—
関東地区	東京都	東京都	5月23日、東金アリーナ
北信越・東海地区	愛知県	岐阜県	6月12日、木曽川体育館
近畿地区	兵庫県	兵庫県	6月6日、兵庫県立障害者スポーツ交流館
中国・四国地区	山口県	高知県	5月29日～30日、岡山市総合文化体育館
九州地区	宮崎県	宮崎県	6月6日、北九州市障害者スポーツセンター

⑥知的障害者サッカー競技地区予選会

全国6地区に分け、平成22年5月9日～6月27日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北地区	札幌市	—
関東地区	東京都	5月30日、市原市緑地運動公園
北信越・東海地区	静岡県	6月6日、新潟県スポーツ公園
近畿地区	大阪府	5月30日、堺市サッカーナショナルトレーニングセンター
中国・四国地区	島根県	5月9日、広島広域公園ビックアーチ
九州地区	長崎県	6月13日、阿蘇ビラパークホテルグランド



⑦知的障害者ソフトボール競技地区予選会

全国6地区に分け、平成22年5月15日～6月13日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北地区	青森県	—
関東地区	横浜市	5月30日、成田市大谷津運動公園
北信越・東海地区	岐阜県	5月30日、岩瀬スポーツ公園
近畿地区	奈良県	6月6日、舞洲運動公園
中国・四国地区	岡山県	6月12日～13日、春野総合運動公園
九州地区	福岡市	—

⑧知的障害者フットボール競技地区予選会

全国6地区に分け、平成22年5月29日～6月13日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北地区	岩手県	6月13日、岩手県営運動公園ラグビー場
関東地区	東京都	5月30日、成田市北羽鳥多目的広場
北信越・東海地区	静岡県	6月13日、しんせい運動広場
近畿地区	神戸市	6月6日、神戸市小野浜公園競技場
中国・四国地区	岡山県	5月29日～30日、山口市維新百年記念公園
九州地区	熊本県	—

⑨精神障害者バレーボール競技地区予選会

全国6地区に分け、平成22年4月24日～6月2日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北地区	秋田県	—
関東地区	横浜市	5月29日、東金アリーナ
北信越・東海地区	浜松市	5月29日～30日、新潟市北地区スポーツセンター
近畿地区	大阪府	6月2日、京都市体育館
中国・四国地区	岡山県	5月29日～30日、岡山市総合文化体育館
九州地区	福岡県	4月24日、福岡市民体育館

3. 日本車椅子バスケットボール選手権大会の開催（東京都）

名 称：内閣総理大臣杯争奪第39回日本車椅子バスケットボール選手権大会

実 施 日：平成22年5月3日～5日

実施場所：東京体育館

参加チーム：20チーム 優勝 宮城MAX（宮城県）

参加人員：選手延べ870人、役員・ボランティア延べ430人

観 客 数：延べ4,757人

そ の 他：印刷物（5種類）を作製し関係団体に配布した。（10月31日発送完了）



4. 日本障害者自転車競技大会の開催

名 称：2010日本自転車競技大会

①トラックレース

実 施 日：平成22年5月8日（土）

実施場所：日本サイクルスポーツセンター（静岡県伊豆市）

参加人数：選手10名 役員18名

②ロードレース

実 施 日：平成22年4月10日（土）

実施場所：万場調整池（愛知県豊橋市）

参加人数：選手16名 役員25名

その他：印刷物（3種類）を作製し関係団体に配布した。

（3月22日発送完了）



5. 国際盲人マラソン大会の開催

名 称：国際盲人マラソンかすみがうらマラソン大会

実 施 日：平成22年4月18日（日）

実施場所：茨城県土浦市川口運動公園陸上競技場・霞ヶ浦湖畔

参加人数：選手 25,058 人（エントリー）うち視覚障害 149 人、車椅子 11 人
ボランティア約 3,500 人

成 果

1) 第10回全国障害者スポーツ大会（千葉大会）

「ゆめ半島 みんなが主役 花咲く笑顔」をスローガンとし、千葉県千葉市、習志野市、船橋市、成田市、東金市、市原市、大網白里町を会場として開催された。

四季折々に色とりどりの花々が先、潮風が香織、水と緑の豊かな志ゼナ触れる「ゆめ半島千葉」を舞台に、障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくりの理念を全国へ発信するとともに、障害のある人一人ひとりが、スポーツをとおして社会に参加し、ともに支え合う全ての人の温かい心を未来へつなぐ大会となることを目指し、①全ての人の、②温かい心を、③未来へつなぐ、を基本方針として開催した。3日間で総参加数延べ64,000人を超え、そのうち、ボランティアは延べ8,000人、観客数は延べ20,000人あり、当省の計画を大幅に上回る参加があった。事業の効果、実施体制、効率性、成果の普及・広報も当初の計画通りに実施できた。

2) 第10回全国障害者スポーツ大会予選会の開催

予選会は団体競技で、全国障害者スポーツ大会へ出場するため9競技12種目の地区予選会を、全国6～7地区において実施された。身体障害者の競技では、車椅子バスケットボール、グランドソフトボール、バレーボール男子・女子を行い、知的障害者の競技では、サッカー、バスケットボール男子・女子、バレーボール男子・女子、ソフトボール、フットベースボールを行い、精神障害者の競技ではバレーボールを行った。

特に、精神障害者のバレーボールにおいては、昨年比で参加地域（チーム）が増えた。

3) 日本車椅子バスケットボール選手権大会（東京都）

平成22年3月末までに10ブロックで予選会が開催され、勝ち上がった20のクラブチームが、同年3月に行われた日本車椅子バスケットボール連盟全国評議員会で公平に抽選にて決定された組み合わせにより、トーナメント戦を行い、日本一のチームを決定した。3日間をとおして、入場者は約5,000人で、また、車椅子体験講座の同時開催により、広く一般の人に実体験に基づいた障害者スポーツへの理解が深まった。

4) 日本障害者自転車競技大会の開催

この大会は、自転車競技の中で唯一の全国大会であり、国際大会への足がかりとなる。この大会に出場した選手が、今年度カナダで開催された世界選手権でも、入賞ポイントを獲得している。今後も引き続きこの大会を行うことにより、競技力の向上が期待される。

また、一般の自転車競技者がパイロットとして視覚障害の選手と一緒に参加し、会場も一般競技と同じ会場を使うことで、一般自転車競技と障害者自転車競技の交流が図られ、障害者スポーツの理解が深まった。

5) 国際盲人マラソン大会の開催

この大会は今回、参加者が25,000人を超え、過去最高となった。盲人ランナーは149名の参加であった。盲人ランナーの参加数は昨年より若干減少したが、今大会から新規に車椅子の部を開設し、11人の選手が参加し、参加できる障害の幅が広がった。また車椅子選手の先導を現役の競輪選手が行い、注目された。

さらに、今大会から国際パラリンピック委員会の公認大会として開催し、記録が公認されるようになった。

本事業により作製した印刷物

(1) 日本車椅子バスケットボール選手権大会(東京都)

ア. 印刷物(5種)

ポスター	1,400 枚
チラシ	10,000 枚
フライヤー	13,000 枚
プログラム	3,000 部
報告書	900 部

イ. 配布先(報告書)

協力企業(200部)、チーム広告協力企(40部)、内部関係者(165部)、賛助会員(300部)、ボランティア(65部)、OB会(100部)、予備(30部)

(2) 日本障害者自転車競技大会

ア. 印刷物(3種)

ポスター	200 部
プログラム	110 部
報告書	150 部

イ. 配布先(報告書)

各競輪場(20部)、各県障害者スポーツ協会(50部)、選手(30部)、障害者スポーツセンター(23部)、大会関係者(27部)